

JAXA の有人宇宙環境利用プログラムグループ 企画推進室の山浦雄一室長が資料32-1 (ISS 有償利用) を説明した後、多少活発な質疑応答があった。(ISS 利用成果が利用者に帰属する枠組みを構築すべく、平成20年度に2時間、21年度に7時間の枠を設定し、公募を行なう計画である。22年度以降に本格的にスタートする。利用料金は利用者から提案するようにしている。)

青江: こう云う公的な法人が税金を使って作った施設の利用と云うことですから、其れは或る意味で公正でなければならないと云うのは、そう云う事かと思うんですけれども、**利用の促進ということから致しますれば、所謂、価格の面<sup>1</sup>**におきましても、又、公序良俗に反するなんてのは此れは論外だと思えますけれども、ある程度営業的な利益・私益と云った事にも十分配慮して、出来る限りハードルを低くして、使って頂くことが第一義という考えで臨んで行くべきではなかろうかと、余り慎重に、法的な観点から少しでも公正性が阻害されたらいかんのだという風に、余り固く考えないで、使って頂く、有用であると云う事を世の中の人に解って頂く、此れが第一義だと言う位な心積もりでやって頂くと良いんじゃないかと思えますけどね。

JAXA 山浦: はい、仰っている事は良く解ります。我々として、矢

---

<sup>1</sup> 「利用されねばならぬ。」との考えが強過ぎるのではないか。選抜された企業に低価格で機会を提供するのであるから、税金を特定の企業に与えたことになる。公正さを守るように、熟慮して価格設定する必要がある。

【議事(1)】「きぼう」有償利用テーマ公募に向けた今後の進め方について

張り人間が要るとか、宇宙とは関係の無い色々なビジネスも参加できる、ソフト的なものも含めて期待して御座います。往々にして固くなりがちですが、慎重且つ大胆に進めさせて頂きます。

青江: 例えば、**宇宙飛行士の若田さんが或る私企業のコマーシャルに出たら悪いのか<sup>2</sup>**というのは、良く良く考えてみたほうが良いと思うんですよね。

JAXA 山浦: 我々、其処を色々な視点で検討いたしました。先ず、宇宙飛行士の行動規範ですが、シャトル飛行士でシャトルで行って帰ってくるだけの飛行士はNASAの行動規範になりますので、一寸難しい問題が御座いますが、ISS飛行士は行動規範として別のもので御座います。それからJAXA職員としての行動規範といったもの、全てに照らしてどうかと云うことで、後は、当然本人が嫌がるのを首根っこを押さえてやるというのは考えないといけないと思いますが、そう云う中で、例えば商品名を連呼するのは、少し如何なものかと正直思って御座います。ただ其処は、あくまでも公共性を、公共性の定義も一寸難しいわけで御座いますけれども、所謂、阻害するものというのは先程書かせて頂いた公序良俗とか、後は、繰り返しますが、そうは言っても国のお金でやっている部分で、非常に特定の処を強調するという処については先ずは慎重にやらせて頂いて、色々な

---

<sup>2</sup> 宇宙飛行士を退役した毛利さんはコマーシャルに出ている。此の辺りに落とし処が在るのではないだろうか。

方の意見を伺いながらという事ですけれども、コマーシャルは全て無理かと言うと、我々は可能性として大いにあるかなと思って御座います。

池上：有償にする動機としてユーザーサイドに立った場合、成果の帰属が明確になると。これは確かに大きなインセンティブになると云う風に思うんですよね。何ぼというプライスリストは今其方からは示してない訳ですよね。で、その辺の相場観的なものを示すようなプライスリストというのはお考えになる心算なんですか。或は打上げに掛かる費用を其処でチャラにしようというような発想をすると、笹棒(べらぼう)に高くなってしまふ訳ですよね。いずれにしても意図的なプライスにならざるを得ない。その辺についてどうされるか、現状ではどんな風にお考えになっています。

JAXA 山浦：我々の公募の仕方は6頁の絵で書かせて頂きましたが、プライスリストは出しません<sup>3</sup>。と申しますのは、非常にこれに対する価値を見いだして下さる方も居られると思いますので、あくまでもJAXAが行ないます2年間と云うのは、価格提案でやらせて頂くと。実際に相場観としては、ロシアで利用する場合には、契約の話に行くところから提示され、ただ、これは公表されて御座いません、で、彼らの場合には色んな輸送手段も含めて百何十回も上がっているようなものを使って御座いますので、其処は或る程度見な

<sup>3</sup> 説明を聞いて貰えなかったと感じて、このように話し始めたのであろうか。

【議事(1)】「きぼう」有償利用テーマ公募に向けた今後の進め方について

がら、そう云うものかなと思って御座いますけれども、この場合、特に最初の2年ですと、何時どのリソースを何処で確保できるか、非常身難しいですので、そう云う事も含めて柔軟にやりたいということと、冒頭に申しました、価格を此方から徒(いたずら)に低く提示する必要も無いですし、高くする事によって敷居が高くなるのを避けたいと云う、そんな考えで御座います。

野本：優勝と云う事はお金を頂くと云う事ですよ。いただいたお金は一体どういう処理になるんでしょうか。今まで、JAXAでこう云う形でお金を貰ったという例があるのか、これが最初のケースだとしたら、他のものにも影響してくると思うんです。其の処理は一体どういう風に考えていらっしゃるのですか。

JAXA 山浦：国庫に入ります。

青江：JAXAの雑収入でしょ。

JAXA 山浦：済みません。あの、先ずは、申し訳ありません。雑収入として計上されます。例えば、地球観測データと云うのも売っていたと云う事も御座います。

青江：これは珍しい例でもなんでも無いんですよ。パテント料だって雑収入に入っている、処理をしとるんです。それから此のプライスは原則はコストリカバリーです。所謂、公共法人の、謂わば公的財産に該当すべき性格の財産の利用によって生ずる利益な訳ですから、其れはコストリカバリー、所謂、適正な対価を頂くというのが原則です、と云う事なんですけれども、所謂、**財政の原則**というものをリジッドに適用

したんでは、こう云うことがそもそも成立しない<sup>4</sup>。と云う風なことになれば、其れはそう云う、所謂、成立しない、ゼロになって行くんだから、其れはそれなりの考え方で以って、適正な対価を設定して行くんだと思うんですね。其れは所謂一種の政策的な判断の入り得る余地があるんだと。いう風に思いますよね。但し、合理性のケショー(?)というのは無いわけです。

森尾: 早い話が大体いくら位なんですか。ロシアに謂ったら向こうから言われるというのはいくら位なんですか。

JAXA 山浦: 実際、我々がやってきていますのは、輸送の料金が一番大きいですね。ですけど、我々が普段やっているのは数千万オーダーですけれども、ただ、其れは又違ったものだと思いますし、其れは一寸、また全然違うファクターですね。もっと大きなものが我々として在ると云う風に考えて頂けますでしょうか。

松尾: 宜しいですか。なるだけ多くの方に使って頂きたいというのは賛成ですけども、一方で有人技術の獲得という立派な目的があるわけで<sup>5</sup>、或る種リーストな使い方をするという一

<sup>4</sup> 原価をそのまま請求したら、受ける企業が居ないと云う事を意味している。しかし、本当であろうか。持ち上げるものの重量当り単価、宇宙飛行士の労働単価、その他要因毎の単価は提示しておくべきなのではないか。其の上で、提案者に価格提案して貰えば良い。

<sup>5</sup> 対症療法が行われた。「良い事は良い。」が行き過ぎると「悪いこと」になる。

【議事(1)】「きぼう」有償利用テーマ公募に向けた今後の進め方について

戦は守って頂きたいという風に思います。

あと、宜しゅう御座いますか。

森尾: 応募されたものが、一次審査があって、合格したものの中から外部委員による選定委員会。その結果と都度公表されるのでしょうか。或は、2次審査、外部委員が選定したものの中から JAXA が恐らくプライオリティをつけて、「此れを最初」とか、やるんですね。そうすると、其の残ったものは次のプライオリティが頂けるのか、其の辺はどんな仕組みをお考えですか。

JAXA 山浦: プライオリティについては仰る通り有ると思います。出来るだけ使って頂きたいと思ってますから、リソースの制約の中で出来なかったという、ただ、我々1回目2回目と云う風に別けてますので、どうしても1回目としては1回目でクローズした形でやりたいと。ただ、何等かの理由で、2時間のものが1時間しか出来なかったと云う事になれば、割を食った人は、其の後に回せると云う風には思います。